園長先生の子育てひろば

令和7年1月

園長 堀田 あけみ

新しい年を迎え、幼稚園では3学期が始まりました。この季節になると、4月からの新年度のことが気になって、そわそわするのではないのでしょうか。入園入学等、大きな環境の変化を控えておられるご家庭では、尚更かと思います。

椋山幼稚園では、入園予定のお子さまを対象とした「こねこくらぶ」が始まっています。月に一度、幼稚園を探検したり（広くて、いろいろ施設があります）、保育室で遊んだりの経験をしていただきます。10月の運動会で未就園児のかけっこに参加されたお子さまもおられます。これは、数十秒で終わってしまいましたが、「こねこくらぶ」では集団の中で一定の時間を一緒に過ごすこととなります。初めての経験になるお子さまもおられます。初回は比較的静かでしたが、遅刻されたお子さまが保育室に入れなかったり、泣いてしまったりするケースもありました。お忙しいのは身に染みてわかりますし、お子さまの調子が出なくて遅くなってしまったのかもしれませんが、幼児は大人が思う以上に場の雰囲気敏感であることをご理解いただきたいと思います。そして、最初がそうだからと言って、次もそうだと限らないことも、その逆も然りである点も、今一度、心においていただけたらと思います。

今は、パパやママと一緒に遊びながら、園の環境に慣れる時期です。目新しい遊具のあるところで、一緒に遊べるのですから、上機嫌に決まっています。でもこの先には、母子分離の回も待っています。お子さまは保育室で遊びますが、保護者のみなさまには、説明会に参加していただきます。何回か来ていると、勝手もわかってきます。お子さまなりに、お気に入りの玩具や一緒に遊ぶお友達ができたりします。ですから、いつもの教室に入って、いつもの先生にお出迎えされると、パパやママが別のお部屋に行くよ、となっても、意外と受け入れてくれるものです。すんなりと、というのは難しいですけれどね。それでも、どうしても離れられない子はいます。

そんなとき、どうしても思ってしまうのが、「他の子はできてるのに、どうして」です。小さいうちは、月齢による差も大きいので、早生まれのお子さまは損をしているような気持ちになるかもしれません。成長するにしたがって、その差は小さくなりますから、今、それほど思い悩む必要はないのが実情です。でも、気になりますよね。先日も、10年ぶりにゆっくりお話しした教え子から、「子育ての苦労は過ぎてしまえば笑い話になるって言われるんですけど、そういわれても今のしんどさは全く軽減されないんですよ」といわれたばかりです。

ただ、今あることは、優劣のない個性だと考えて、月齢に原因を求めない癖を付けておいた方がよいように思います。大切なお誕生日に、マイナスの感情を持たないように。むしろ、この先に気をつけておくべきは、本来、できないことの差は加齢とともに小さくなっていくという点です。お子さまの発達に気がかりな点があったときには、それが半年以上続いているかと、周囲との差が小さくなっているか広がっているかに気をつけてみてください。どうも広がっているように思われる、と感じたら、どこかに相談してみてもいいでしょう。